

PLAN	No.	25	—	1	基本事務事業名	土地改良事業	事務事業名	県単土地改良事業	公的関与	2	シート作成日	令和6年6月14日			
	部局名	産業経済部				課名	農地整備課	主務課長名	住友 宏好	シート作成者名	松本 祐樹				
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☒ 3 全部委託				
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		4. 豊かで活力ある阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(1) 農業の振興				☒ 1 該当		令和 3 年 ~	令和 8 年	☐ 期間設定なし			
		主要施策		(4) 農業生産基盤の整備				☐ 2 非該当		根拠法令等	徳島県耕地関係事業補助金交付要綱				
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		市民等の農地所有者及び関係団体											
		目的(どうい う状態にし たいのか)	最終的	農業生産の推進及び農地維持管理の軽減を図ります。											
			今年度	要望のありました農道整備事業に取り組みます。											
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 農業用道路の整備														
	② 農業用排水路の整備														
	③														
	④														
	⑤														
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	最終目標					
	工事施工率			%	目標		25	35	40	100					
					実績		23	35							
	用地取得率			%	目標		100	100	100	100					
					実績		85	85							
						目標									
					実績										
DO	予算費目	会 計	一般会計				款	6	農林水産業費	項	2	農地費	目	1	農地総務費
			令和 4 年度決算		令和 5 年度決算		令和 6 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金			千円			千円			千円				
		県支出金			2,170 千円			2,065 千円			2,030 千円				
		地方債			2,600 千円			千円			千円				
		その他特定財源			千円			千円			千円				
		一般財源			1,885 千円			3,835 千円			4,470 千円				
		計(A)			6,655 千円			5,900 千円			6,500 千円				
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.200 人		1,208 千円	0.200 人		1,212 千円	0.200 人		1,191 千円				
		会計年度任用職員職種													
		会計年度任用職員工数・経費	人		0 千円	人		0 千円	人		0 千円				
	全体事業費(A+B)				7,863 千円		7,112 千円		7,691 千円						

CHECK		チェック項目	一次評価		一次評価の説明	二次評価					
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	国等の助成を受けられない地域において、農業の近代化を促進するため必要な農業生産の基盤及び開発を図り、もって農業生産性の向上及び農業構造の改善に資することを目的とした事業であるため地域の自然的経済的諸条件の適合していない箇所について、早急に対応する必要があります。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	徳島県の補助事業を有効に活用します。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマナー化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	目標設定に対し、概ね達成し十分に整備できています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☒ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☐ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	現在のところ適当です。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	4	A	4	4	3	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	
		☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止			
	当面の課題	古い農業用施設等、現状危険な箇所があり、農業生産性の向上及び改善を図るにあたり、安心して営農が行えるよう早急に整備する必要があります。 所有者不明や未相続、不在地主などの問題による事業着手の遅れや、物価高騰によるコストの上昇などの課題があります。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
改革案と実行計画	事業実施箇所については、徳島県とも十分協議を行い事業対象となるかを検討し、耕作条件の整備を図ります。					土地改良事業は、農地の持つ多面的機能維持のためには、必要な事業であることから今後も事業を継続します。					
委員会指摘事項											

阿波市全庁評価シート 令和5年度実施事業対象

P L A N	No.	25	—	2	基本事務事業名	多面的機能支払交付金事業	事務事業名	多面的機能支払交付金事業	公的関与	1	シート作成日	令和6年6月14日			
	部局名	産業経済部			課名	農地整備課	主務課長名	住友 宏好		シート作成者名	中川 浩志				
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☒ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☐ 3 全部委託				
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☒ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		4. 豊かで活力ある阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(1) 農業の振興				☒ 1 該当		令和	年	～	令和	年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(3) 農用地の保全				☐ 2 非該当		根拠法令等					
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		農地・農業用水路等の保全のための地域農業者を中心とする活動組織											
		目的(どうい う状態にし たいのか)	最終的	農地及び農村環境の保全や農村文化の継承等の地域農業者を中心とした農業・農村の保全											
			今年度	各活動組織が農地や農村環境保全のために、今まで行ってきた取組を継続できるよう支援する											
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 資源の適切な維持管理														
	② 施設の長寿命化や、長寿命化に繋がるきめ細やかな保全活動														
	③ 生態系の保全、景観形成等農村環境を維持する活動														
	④														
	⑤														
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	最終目標					
	事業対象面積				ha	目標	2,253	2,369	2,346						
						実績	2,167	2,157							
						目標									
						実績									
						目標									
						実績									
	予算費目 会 計 一般会計 款 6 農林水産業費 項 2 農地費 目 1 農地総務費														
D O			令和 4 年度決算		令和 5 年度決算		令和 6 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円								
		県支出金	111,617 千円		109,535 千円		121,798 千円								
		地方債	千円		千円		千円								
		その他特定財源	千円		千円		千円								
		一般財源	35,259 千円		36,078 千円		40,599 千円								
		計(A)	146,876 千円		145,613 千円		162,397 千円								
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.800 人	4,834 千円	0.800 人	4,848 千円	人	0 千円							
		会計年度任用職員職種	多面的機能支払交付金事業推進員		多面的機能支払交付金事業推進員										
		会計年度任用職員工数・経費	1.000 人	2,020 千円	人	0 千円	人	0 千円							
全体事業費(A+B)		153,730 千円		150,461 千円		162,397 千円									

CHECK		チェック項目		一次評価		一次評価の説明	二次評価				
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	農地・農業用水路などの資源は、過疎化・高齢化・混住化等による集落機能の低下により、その保全管理を活動素組織が中心に行うことが不可避となっています。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	活動組織を中心とした地域ぐるみでの活動を支援することで、農地・農業用水路などの資源の保全と質的向上が図れます。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	概ね目標を達成していると思われるが、未実施地区での組織立ち上げや現状の組織の広域化など、今後の事業発展に期待が持たれます。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	活動組織の広域化に取り組むことで事務の簡素化を行うことが可能と考えます。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☒ ある	☐ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	評価点	一次評価				二次評価					
		必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	3	3	A	4	4	4	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	
		☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止			
	当面の課題	新たな課題として組織役員の高齢化や後継者不足、事務の複雑化などが考えられます。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	組織の広域化を推進し、積極的に事務支援を行います。					地域資源の機能維持・管理や活性化を図るためにも、継続して事業を推進します。				
委員会指摘事項											

PLAN	No.	25	—	3	基本事務事業名	森林病虫害等防除事業	事務事業名	森林病虫害等防除事業	公的関与	6	シート作成日	令和6年6月14日	
	部局名	産業経済部			課名	農地整備課	主務課長名	住友 宏好	シート作成者名	栗林 征			
	事業区分	☒ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☒ 3 全部委託		
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☒ 4 補助等		
	総合計画	基本構想(政策)		2. 安全・安心・快適な阿波				実施計画		事業の開始・終了			
		基本計画(施策)		(4)環境保全の推進				☒ 1 該当		令和 年	～	令和 年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(6)森林の適正管理の促進と保全・活用				☐ 2 非該当		根拠法令等			
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		土柱周辺の自然環境の維持									
		目的(どうい う状態にし たいのか)	最終的	土柱周辺の森林の保護と景観の維持									
			今年度	防除事業による病虫害被害の防止									
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)												
	① 松くい虫の駆除委託(伐倒駆除・樹幹注入)												
	②												
	③												
	④												
	⑤												
数値目標 (事業の目的 及び活動内 容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	最終目標			
	特別駆除	グリーンガード使用本数		本	目標	300	400	600					
					実績	215	82						
	松くい虫による倒木本数			本	目標	0	0	0					
					実績	17	11						
						目標							
						実績							
	予算費目 会 計 一般会計 款 6 農林水産業費 項 3 林業費 目 1 林業振興費												
DO			令和 4 年度決算		令和 5 年度決算		令和 6 年度予算		備考				
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円						
		県支出金	千円		千円		千円						
		地方債	千円		千円		千円						
		その他特定財源	千円		千円		千円						
		一般財源	2,111 千円		1,647 千円		3,594 千円						
		計(A)	2,111 千円		1,647 千円		3,594 千円						
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.100 人	604 千円	0.100 人	606 千円	0.300 人	1,786 千円					
		会計年度任用職員職種											
		会計年度任用職員工数・経費	人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円					
全体事業費(A+B)		2,715 千円		2,253 千円		5,380 千円							

		チェック項目				一次評価		一次評価の説明		二次評価	
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。				☐ 少ない	☒ 大きい	阿波市の観光資源の一つである「阿波の土柱」の景観を保全することで、土柱周辺の森林環境の多様性の保全にも欠かせないものです。	☐ 少ない	☒ 大きい	
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。				☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある	
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。				☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない	
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。				☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない	
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。				☐ いえない	☒ いえる	土柱周辺の景観を保全するには、現在行っている樹幹注入などの防除方法は、非常に有効な手段です。	☐ いえない	☒ いえる	
		2. 事業内容のマナー化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。				☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる	
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。				☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない	
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。				☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる	
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。				☐ 目標に比べて劣っている	事業を実施することで、松くい虫による被害を最小限に抑えることができている。	☐ 目標に比べて劣っている			
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。				☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない			
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。				☒ 概ね達成している		☐ 概ね達成している			
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。				☐ 十分達成している		☒ 十分達成している			
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。				☐ 高い	☒ 適当	森林環境譲与税を活用することで、今後も事業の継続が可能となり、土柱周辺の景観維持と環境保全ができています。	☐ 高い	☒ 適当	
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。				☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない	
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。				☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない	
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。				☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない	
ACTION	評価点	一次評価 必要性 4 有効性 4 達成度 3 効率性 4 総合評価 A				二次評価 必要性 4 有効性 4 達成度 4 効率性 4 総合評価 A					
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民間委託等 ☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定 ☐ 廃止/休止				☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民間委託等 ☐ 縮小 ☐ 統合/終期設定 ☐ 廃止/休止					
	当面の課題	土柱周辺の景観維持と松林の維持管理に努めます。				二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点					
	改革案と実行計画	今後も計画的に松くい虫の防除等を行っていきます。				観光資源の一つである「阿波の土柱」の風致景観の維持のため、継続して事業を実施します。					
	委員会指摘事項										

PLAN	No.	25	—	4	基本事務事業名	鳥獣被害対策事業	事務事業名	鳥獣被害対策事業	公的関与	2	シート作成日	令和6年6月14日		
	部局名	産業経済部			課名	農地整備課	主務課長名	住友 宏好	シート作成者名	栗林 征				
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☒ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☒ 1 直営		☐ 3 全部委託			
		☐ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☒ 2 一部委託		☒ 4 補助等			
	総合計画	基本構想(政策)		4. 豊かで活力ある阿波				実施計画		事業の開始・終了				
		基本計画(施策)		(1) 農業の振興				☒ 1 該当		令和 年	～	令和 年	☒ 期間設定なし	
		主要施策		(3) 農用地の保全				☐ 2 非該当		根拠法令等				
	事業の対象・目的	対象(誰を、何を)		市民(農業従事者)										
		目的(どういう状態にしたいのか)		最終的	有害鳥獣による農作物及び山林への被害を軽減する。									
				今年度	有害鳥獣による農作物及び山林への被害を軽減する。									
事業の活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)													
	① 鳥獣被害の調査及び聞き取り													
	② 有害鳥獣駆除の申請手続													
	③ 有害鳥獣駆除の実施													
	④ 新規狩猟者の育成補助(狩猟免許取得費用の助成)													
	⑤													
数値目標 (事業の目的及び活動内容の達成度を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	最終目標				
	被害金額				円	目標	2,700,000	2,700,000	2,700,000					
						実績	1,542,000	302,148						
	狩猟免許取得者数				人	目標	10	10	10					
						実績	0	1						
						目標								
					実績									
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	6	農林水産業費	項	3	林業費	目	1	林業振興費
			令和 4 年度決算	令和 5 年度決算		令和 6 年度予算		備考						
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円		県支出金は、阿波市有害鳥獣捕獲対策協議会予算額(交付決定額)及び決算額(確定額)					
		県支出金	6,947 千円		5,343 千円		4,772 千円							
		地方債	千円		千円		千円							
		その他特定財源	千円		千円		千円							
		一般財源	12,506 千円		8,370 千円		8,827 千円							
		計(A)	19,453 千円		13,713 千円		13,599 千円							
	人件費(B)	正職員工数・経費	1.500 人	9,063 千円		人	0 千円		人	0 千円				
		会計年度任用職員職種												
会計年度任用職員工数・経費		人	0 千円		人	0 千円		人	0 千円					
全体事業費(A+B)		28,516 千円		13,713 千円		13,599 千円								

CHECK		チェック項目		一次評価		一次評価の説明	二次評価				
必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	有害鳥獣による農作物への被害は、農家の生産意欲を著しく減退させ、耕作放棄地や離農などの増加へと繋がり、特に中山間地域における被害は深刻で、重要な施策であると考えます。		☐ 少ない	☒ 大きい				
	2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある			☐ ない	☒ ある				
	3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない			☐ ある	☒ ない				
	4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない			☐ いる	☒ いない				
有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	有害鳥獣を計画的に捕獲・駆除することは、鳥獣の頭数管理に繋がっており、農地への出没回数、被害の減少と農産物への被害軽減に有効であると考えます。		☐ いえない	☒ いえる				
	2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる			☐ いえない	☒ いえる				
	3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない			☐ する	☒ しない				
	4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる			☐ できない	☒ できる				
達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	計画的な侵入防止策の設置やサル用大型囲い、イノシシ用箱わなを設置することで、捕獲や被害防止に繋がっていると考えられます。		☐ 目標に比べて劣っている						
	2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない			☐ あまり上がっていない						
	3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している			☐ 概ね達成している						
	4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している			☒ 十分達成している						
効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	対象が鳥獣であり、正確な個体数を把握することが困難なことから、即効性や効率性を求めることが難しい現状ですが、有害鳥獣の駆除業務については、継続して実施する必要があると考えます。		☐ 高い	☒ 適当				
	2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない			☐ できる	☒ できない				
	3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☒ ある	☐ ない			☐ ある	☒ ない				
	4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない			☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性 4	有効性 4	達成度 3	効率性 3	総合評価 A	必要性 4	有効性 4	達成度 4	効率性 4	総合評価 A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	駆除業務の中心となる阿波市猟友会の高齢化が進む一方で、新たに狩猟免許を取得する者も少なく、会員数が減少しています。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	新規狩猟免許取得者の育成に務めるため、狩猟免許取得補助事業を継続します。					有害鳥獣による農作物への被害防止については、駆除や防除を継続し、その他総合的に対策を進めます。				
	委員会指摘事項										

PLAN	No.	25	—	5	基本事務事業名	治山整備事業	事務事業名	市単治山事業	公的関与	2	シート作成日	令和6年6月14日		
	部局名	産業経済部			課名	農地整備課	主務課長名	住友 宏好	シート作成者名	松本 祐樹				
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☒ 3 全部委託			
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等			
	総合計画	基本構想(政策)		2. 安全・安心・快適な阿波				実施計画		事業の開始・終了				
		基本計画(施策)		(4)環境保全の推進				☒ 1 該当		令和 3 年 ~	令和 6 年	☐ 期間設定なし		
		主要施策		(6)森林の適正管理の促進と保全・活用				☐ 2 非該当		根拠法令等				
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)	治山事業が必要な地域・箇所											
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	市民が安心して生活できるよう山林の環境、基盤の整備を行います。										
			今年度	治山事業が必要な箇所に土留壁を施工します。										
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)													
	① 山地及び急傾斜地の巡回パトロール													
	② 治山事業における土留壁の施工													
	③													
	④													
	⑤													
数値目標 (事業の目的 及び活動内容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	最終目標				
	工事施工延長				m	目標	55	33	30	118				
						実績	55	33						
						目標								
						実績								
						目標								
実績														
DO	予算費目	会 計	一般会計			款	6	農林水産業費	項	3	林業費	目	2	治山費
			令和 4 年度決算		令和 5 年度決算		令和 6 年度予算		備考					
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円							
		県支出金	千円		千円		千円							
		地方債	千円		千円		千円							
		その他特定財源	千円		千円		千円							
		一般財源	10,307 千円		4,994 千円		6,600 千円							
		計(A)	10,307 千円		4,994 千円		6,600 千円							
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.300 人	1,813 千円		0.300 人	1,818 千円		0.300 人	1,786 千円				
		会計年度任用職員職種												
会計年度任用職員工数・経費		人	0 千円		人	0 千円		人	0 千円					
全体事業費(A+B)		12,120 千円		6,812 千円		8,386 千円								

CHECK	チェック項目					一次評価		一次評価の説明		二次評価	
	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。				☐ 少ない	☒ 大きい	阿波市において山林面積は広く、山林に隣接する家屋(民家)を災害等から守るための治山事業が必要な箇所も多くあります。	☐ 少ない	☒ 大きい	
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。				☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある	
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。				☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない	
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。				☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない	
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。				☐ いえない	☒ いえる	県単事業で整備した土留壁から続く一連の施設として施工することで、周辺の民家を土砂崩れから守る施設として有効的と考えられます。	☐ いえない	☒ いえる	
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。				☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる	
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。				☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない	
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。				☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる	
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。				☐ 目標に比べて劣っている	計画通り施工できており、危険箇所の整備ができています。	☐ 目標に比べて劣っている			
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。				☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない			
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。				☐ 概ね達成している		☐ 概ね達成している			
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。				☒ 十分達成している		☒ 十分達成している			
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。				☐ 高い	☒ 適当	計画通り施工ができており、現在のところ適当です。	☐ 高い	☒ 適当	
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。				☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない	
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。				☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない	
4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。				☐ ある	☒ ない	☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価	必要性	有効性	達成度	効率性	総合評価
		4	4	4	4	A	4	4	4	4	A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実	☒ 現状維持	☐ 方法改善	☐ 民間委託等	
		☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止			☐ 縮小	☐ 統合/終期設定	☐ 廃止/休止		
	当面の課題	近年の異常気象による大雨などにより、山林(保安林等)の地すべりや山腹崩壊などが危惧されます。 また、近年の資材高騰に伴い工事費も上昇が予想されることから、事業費の増加が考えられます。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	日頃の点検と危険箇所の整備工事の早期完成を目指します。					県単治山事業の施工箇所から続く治山事業であり、一体的に管理することで、これまでの施工箇所とともに、森林の持つ多面的機能を維持していくために必要な事業であり、継続します。				
委員会指摘事項											

PLAN	No.	25	—	6	基本事務事業名	林道整備事業	事務事業名	県単林道事業	公的関与	2	シート作成日	令和6年6月14日			
	部局名	産業経済部			課名	農地整備課	主務課長名	住友 宏好	シート作成者名	松本 祐樹					
	事業区分	☐ 1 ソフト事業		☐ 3 経常的事務事業		☐ 5 補助金・負担金・支援		事業運営方法	☐ 1 直営		☒ 3 全部委託				
		☒ 2 ハード事業		☐ 4 施設の維持管理		☐ 6 内部管理事務・その他			☐ 2 一部委託		☐ 4 補助等				
	総合計画	基本構想(政策)		2. 安全・安心・快適な阿波				実施計画		事業の開始・終了					
		基本計画(施策)		(4)環境保全の推進				☒ 1 該当		令和	年	～	令和	年	☒ 期間設定なし
		主要施策		(6)森林の適正管理の促進と保全・活用				☐ 2 非該当		根拠法令等					
	事業の 対象・目的	対象(誰を、何を)		市民等の森林所有者及び関係団体											
		目的(どういう状態にしたいのか)	最終的	林業の生産性の向上を図り、林業経営安定のため林道整備を行います。											
			今年度	林道整備(補修)を行います。											
事業の 活動内容	具体的にどのような活動を行いますか。(主なもの5つまで)														
	① 林道の管理と整備														
	②														
	③														
	④														
	⑤														
数値目標 (事業の目的 及び活動内容の達成度 を測る指標)	指標名		計算式又は指標設定理由		単位		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	最終目標					
	工事箇所			箇所	目標	2	1	1							
		実績	2		1										
	工事達成率			%	目標	100	100	100							
		実績	100		100										
						目標									
						実績									
	予算費目														
DO	会 計	一般会計			款	6	農林水産業費	項	3	林業費	目	2	治山費		
			令和 4 年度決算	令和 5 年度決算	令和 6 年度予算	備考									
	直接事業費	国庫支出金	千円		千円		千円								
		県支出金	4,500 千円		1,125 千円		1,800 千円								
		地方債	2,200 千円		2,100 千円		3,200 千円								
		その他特定財源	千円		千円		千円								
		一般財源	6,566 千円		97 千円		千円								
		計(A)	13,266 千円		3,322 千円		5,000 千円								
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.200 人	1,208 千円	0.200 人	1,212 千円	0.200 人	1,191 千円							
		会計年度任用職員職種													
会計年度任用職員工数・経費		人	0 千円	人	0 千円	人	0 千円								
全体事業費(A+B)		14,474 千円		4,534 千円		6,191 千円									

CHECK		チェック項目		一次評価		一次評価の説明	二次評価				
CHECK	必要性	1. 市が実施しなくても、公平性・公正性が確保できる等、他の実施主体があり、事業を廃止・休止しても影響は大きくない。	☐ 少ない	☒ 大きい	森林の施業計画達成のためのアクセス道路として必要な施策で、森林の整備は、カーボンオフセット・水源確保・防災には欠かせない事業であると考えます。	☐ 少ない	☒ 大きい				
		2. 厳しい財政状況の中、次年度以降実施する緊急性が認められない。	☐ ない	☒ ある		☐ ない	☒ ある				
		3. 住民満足度の向上のために、現在的手段、方法等の改善の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 住民ニーズの低下がみられたり、近隣自治体と比較してニーズを上回るサービスとなっている。	☐ いる	☒ いない		☐ いる	☒ いない				
	有効性	1. 施策の目的を実現するために、事業内容が必ずしも適切とはいえない。	☐ いえない	☒ いえる	森林の持つ多面的機能を発揮させるためには、施業が欠かせなく、アクセス手段としての林道整備は有効なものと考えます。	☐ いえない	☒ いえる				
		2. 事業内容のマンネリ化など、施策への貢献度が著しく高いとはいえない。	☐ いえない	☒ いえる		☐ いえない	☒ いえる				
		3. 市が実施する施策の中で類似・重複した事務事業が存在する。	☐ する	☒ しない		☐ する	☒ しない				
		4. 事業の継続をしても成果の向上が期待できない。	☐ できない	☒ できる		☐ できない	☒ できる				
	達成度	1. 目標設定に対して進捗状況が劣っていると思う。	☐ 目標に比べて劣っている	概ね目標を達成する整備ができています。	☐ 目標に比べて劣っている						
		2. 目標設定に対して成果があまり上がっていないと思う。	☐ あまり上がっていない		☐ あまり上がっていない						
		3. 目標設定に対して概ね目標を達成していると思う。	☒ 概ね達成している		☐ 概ね達成している						
		4. 目標設定に対して十分に目標を達成していると思う。	☐ 十分達成している		☒ 十分達成している						
	効率性	1. 効果に比べてコストが高い。	☐ 高い	☒ 適当	現在のところ、適当であると考えます。	☐ 高い	☒ 適当				
		2. 他の実施主体のノウハウや新たな制度を活用できる。	☐ できる	☒ できない		☐ できる	☒ できない				
		3. 予算・人員と成果の関係で、実施手段等を見直す余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
		4. 電子化や契約方法の変更などによりコスト削減の余地がある。	☐ ある	☒ ない		☐ ある	☒ ない				
ACTION	一次評価					二次評価					
	評価点	必要性 4	有効性 4	達成度 3	効率性 4	総合評価 A	必要性 4	有効性 4	達成度 4	効率性 4	総合評価 A
	今後の方向性	☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等		☐ 拡大・充実 ☐ 縮小	☒ 現状維持 ☐ 統合/終期設定	☐ 方法改善 ☐ 廃止/休止	☐ 民間委託等	
	当面の課題	林道改良事業については、概ね危険箇所の整備を完了しており、今後は適切な維持管理に向け、落石の見られる箇所などの危険箇所の点検把握に努めます。					二次評価での指摘事項及び一次評価との相違点				
	改革案と実行計画	危険箇所等点検により把握した場所について、森林環境譲与税などを活用し、整備を図っていきたいと考えます。					林道は、森林の持つ多面的機能を維持・管理するために必要であることから、事業を継続します。				
	委員会指摘事項										